

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	地域包括ケアに向けた高齢者分野と障害者分野との連携・協働に関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	木村 綾
	研究協力者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	天野 ゆかり
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	木村 綾

講演題目
地域包括ケアに向けた高齢者分野と障害者分野との連携・協働に関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望
地域において、医療・介護・住まい・生活支援・社会参加の支援が必要な者は高齢者に限られず、経済的困窮者、単身・独居者、障害者、ひとり親家庭や、これらの要素が複合したケースも含め多様に存在する。そのため、重層的支援体制の整備など、多世代型の地域包括ケアシステムを推進する自治体が出てきている。 しかしながら、一つの分野だけでは解決できない事例が増えてきており、他分野との連携が必要となってきた。特に、地域においては障害を抱える人たちのケースが増えてきており、8050 問題のように高齢分野と障害者分野との連携が欠かせない状況になっているが、それぞれの根拠となる法律や利用できるサービスの違いから対応に苦慮しているケースが少なくない。 本研究においては、地域における高齢者福祉分野と障害者福祉分野の連携を進めるために、現場において高齢分野と障害分野の連携に関する課題を整理することを目的とした。 A 市において、地域包括支援センターと基幹相談支援センター及び相談支援事業所の職員が参加する会議の資料及び会議録を基に、それぞれが認識している課題を整理した。 その結果、参加者からは「高齢・障害の支援者間の意思疎通が図れないことで、互いに役割と世帯への関わりにズレが生じてしまった」、「受診につながっていない、手帳を取得していない人への対応に苦慮（つなぎ先が分からない等）」、「高齢分野の支援者は障害の制度をあまり知らないため、対象者が 65 歳になった時の高齢分野への引継ぎが円滑に進まない」、「障害分野には高齢者実態調査のように一斉に調査する仕組みがない」、「キーパーソンになる人がいない」、「互いの常識・認識が異なるため、制度の基本的な情報や事業所の支援内容など、基礎知識を擦り合わせる必要がある」、「サービス利用開始までのスピード感や制度の違いについて理解が必要」などの意見がみられた。 高齢者福祉と障害者福祉は、制度や対象者が別々に設計されており、相互の連携が制度上円滑に進まない状況にあり、現場においても、その課題を認識されているものの、連携を図る仕組みがなく、支援者あるいは事業所個々の取り組みに委ねられている状況が推察される。 今後は、現場レベルの効果的な実践を収集するとともに、有機的な連携の推進に向け、連携の具現化のための研究の方向性や必要性を検討していく必要がある。